



「17の目標」

第3弾

12 つくる責任
つかう責任

目標12 つくる責任つかう責任 ～持続可能な消費と生産のパターンを確保する～

それって本当にごみですか？

私たちの社会は大量のエネルギーを使用し、さまざまなものを生産・消費して大量のものを廃棄しています。このままでは地球の資源がなくなってしまう、環境破壊や汚染がさらに進行してしまいます。まだ食べられるもの、使えるものを簡単に捨ててしまったりしていませんか？ 私たち一人一人が資源を無駄にしないよう、責任を持つことが大切です。

私たちにできること！

- ✓ ペットボトルごみを増やさないために、飲み物はマイボトルに入れる
- ✓ 紙類のごみも適切に分別して資源ゴミとして出す
- ✓ 環境に負荷がかかるプラスチック素材ではなく自然由来の製品を選択する

世界と日本の現状 ～天然資源問題～

世界各地には、石油・石炭・金・鉄などの天然資源が埋蔵されています。しかし、現状の生活を続けていくとほとんどの資源が100年以内に尽きる予想となっています。日本はこれらの資源をほとんど輸入に頼っているため、将来的に値上がりなどで生活が混乱する可能性があります。生産と消費の裏で起きている現状を理解しSDGsの行動に繋げていきましょう。



SDGsに関する情報は町ホームページへ



持続可能な消費のために

食品ロスが自然災害につながっている！？

「食品ロス」とは、まだ食べることができるのに、捨てられてしまう食べ物のことで、規格外の加工食品や賞味期限切れの食品、家庭や飲食店での食べ残しなどが含まれています。食品ロスと自然災害は一見関係ないように見えて、実は大きく関係しています。食品ロスが増加すると、ゴミとして燃やす際に温室効果ガスが排出されてしまいます。本来食べられるものを廃棄することは、はじめから食べない食品を生産していたことになり、土地や水を無駄に使用していたこととなります。つまり、食品ロスが増えるほど土地不足や水不足を招き、自然災害を誘発することにつながってしまうのです。

エシカル消費を進めよう

エシカル消費は「人や社会、環境に配慮した消費をする」ことをさします。商品やサービスを選ぶときは、機能や価格だけでなく「自然環境にやさしいか」「どこでつくられたのか」「誰かが苦しんでいないか」といった背景も考えるようにしましょう。

- エシカル消費の例
- ・商品棚の手前に置いてある消費期限や賞味期限の迫った商品を積極的に選ぶ「てまえどり」をする
 - ・環境保全や資源保護などに関する認証ラベルの付いた商品を選ぶ（エコマークなど）



11月26日(日)、令和3・4年度に引き続き講演会を開催！
 ➡ 詳しくは27ページをご覧ください

